

北海道ぎょれん広報

なみまるくん



12

2013
No.302

[うみ・なかま コミュニケーション]

北海道
ぎょれん



特集

サハリンプロジェクトの今 ～サハリン視察2013～
新しい室蘭水産ビルが完成しました



日高地区女性部連絡協議会 「パルシステム生協連との 料理教室」

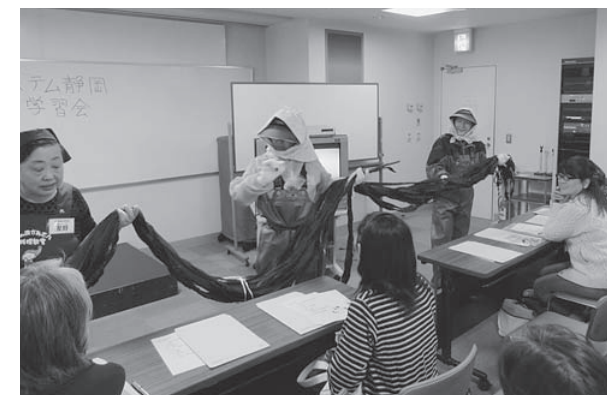


新鮮なたこを使って捌き方をデモンストレーションする日高地区女性連の皆さん

本州の都九県の生協で構成するパルシステム生活協同組合連合会と日高地区女性連、ぎよれんの共催による料理教室。初めて行われた昨年は、パルシステム静岡との開催でしたが、参加した生協組合員の皆さんから大変好評を得たこともあり、今年は3県からの依頼がありました。

11月12日(火)は埼玉県さいたま市でパルシステム埼玉と、13日(水)は山梨県笛吹市でパルシステム山梨と、15日(金)は静岡県静岡市でパルシステム静岡と、計3回の料理教室を行いました。首都圏の消費者と生産者が交流し道産水産物の消費拡大を図るために企画された今回の料理教室。日高産の昆布やたこなどを使い、「焼き昆布とカボチャの春巻き」や「タコ飯」など浜のおかあさんのアイデアあふれる料理計6品を参加者と一緒に作りました。

講師を務めた住岡地区会長、星野副会長、川崎監事は、浜で昆布干し作業の際に着るゴムガッパを身にまとい、10メートルもある日高昆布を持つて登場。参加した皆さんの心をギュッと掴んだうえで、



浜の昆布漁を伝える「昆布パフォーマンス」が首都圏の消費者に好評でした

【うみ・なかま コミュニケーション】

なみまるくん

北海道ぎよれん広報誌
Hokkaido Gyoren Magazine
December 2013 No.302

12

01 浜の元気印!
日高地区女性部連絡協議会「パルシステム生協連との料理教室」

特集1
02 サハリンプロジェクトの今 ～サハリン視察2013～

06 根室・留萌地区で三連合同研修大会が開催されました

浜の家族物語
07 いぶり噴火湾漁協／福島 正和 さん ご家族

つな
継ぐ50年の歴史と情熱 浜の若きリーダーを訪ねて
08 日高地区漁青連会長／佐々木 優 さん

特集2
10 新しい室蘭水産ビルが完成しました

大漁祈願!
11 浜のほっとニュース

12 なみまるインフォメーション

14 きらめく☆北海道の漁業を担う希望の星
漁業研修所通信・第4回
海友祭&修了式

15 頭すっきり!! ブレイクタイム

16 協同の力でコスト削減
系統ブランド資材紹介コーナー

みなさんのお便りでつくるページ
17 なみまる おたより箱

表紙の写真
いぶり噴火湾漁協／福島 正和さんご家族です。



穏やかな天気の子の秋の虻田漁港

サハリンプロジェクトの今

～サハリン視察2013～



サハリン航空でユジノサハリンスクへ



プリゴロドノエの原油・LNG積出ターミナル



ユジノサハリンスクにあるエクソン・ネフテ社本社

**「エクソン・ネフテ社」
副社長が応対し安全性を強調しました**

エクソン・ネフテ社は、LNGをパイプラインでロシア国内に運び、原油を日本や韓国等に販売しています。10月30日、環境本部は、日本国内のステークホルダー（利害関係団体）とし

来札した担当者との協議を行いながら、油濁事故対策の要請を実施。2008年10月には、初めてサハリンを訪問し洋上採掘箇所や積み出し港からの油流出事故対策に関する現地協議を実施しました。また、2011年10月の訪問では、エクソン・ネフテ社とも現地協議が実現しました。今回は、2年ぶり3回目のサハリン訪問となりました。



エクソン・ネフテ社での協議にはツオイ副社長(写真左)も同席しました

て本社を訪問しました。

サハリン1プロジェクトは、日本との融資関係が無いと、油濁事故を含めた環境配慮に関して直接要請ができません。前回のサハリン訪問では、環境本部の再三にわたる要請により、サハリンでの現地協議が実現しましたが、エクソン・ネフテ社役員の参加は無く、タンカー運行情況や具体的な事業の説明もありませんでした。

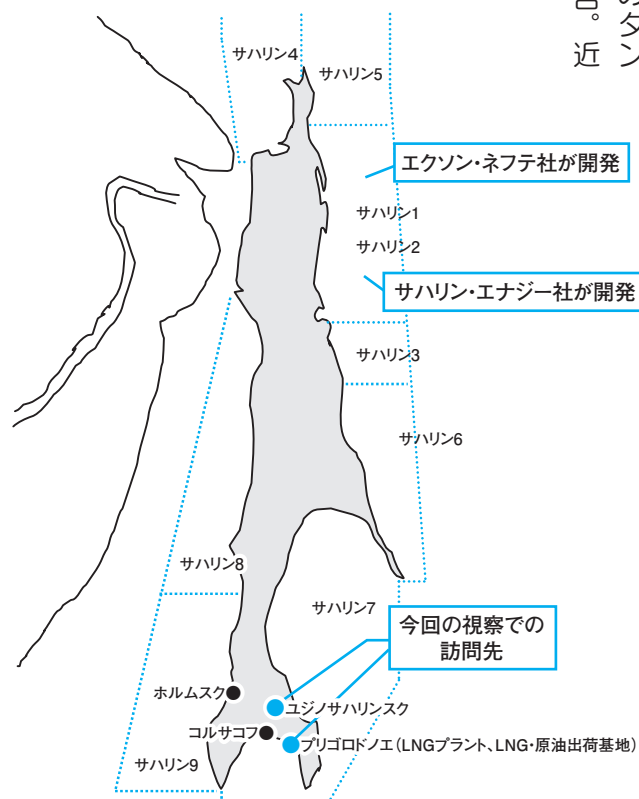
今回の協議には、ツオイ副社長と油濁事故対応および広報担当者が出席。冒頭、環境本部から、北海道の漁業者が大規模な油濁事故の発生を懸念していると伝えました。これに対しエクソン・ネフテ社は、油濁事故の防止体制、油濁事故対応訓練の継続実施、北海道周辺のタンカー運行情況および油田開発状況を報告。近

現在サハリン沿岸海域で大規模な原油・LNG（液化天然ガス）開発を実施しているのは、北部サハリン1鉱区のエクソン・モービル子会社の「エクソン・ネフテ」、隣接する北部サハリン2鉱区の「サハリン・エナジー」の2社です。その他、北部のサハリン3鉱区でも事業が開始されています。サハリン周辺には9箇所の鉱区があり、将来的にはオホーツク海全域が大規模な油田地帯になる可能性もあります。

サハリン油田の開発が本格化し、原油やLNGを運搬するタンカーが北海道周辺を頻繁に航行するようになると、油流出事故のリスクが高まります。そのため、原油流出の未然抑止や事故発生時の対応を促すため、サハリンプロジェクト事業者への交渉手段を得る事が、北海道漁業にとって非常に重要な課題です。環境本部では、サハリン・エナジー社との往復書簡や

オホーツク海沿岸全域が大規模油田地帯となる可能性も

10月30日から11月2日までの日程で、北海道漁業環境保全対策本部（以下環境本部）の9名がサハリンを訪問し、関係機関に対し、サハリンでの油流出事故の防止及び防除体制の整備を要請しました。今回の視察についてぎょれん環境部豊福部長代理が報告します。



年、油濁事故が発生していないことや、新技術の開発により安全性を高めていくとの説明がありました。大規模事故が発生した際に対応が困難な現在の海上採掘施設から、より対応が容易な陸上と繋がる海中採掘施設の開発にシフトすることなど今後の展望について説明がありました。タンカーは、冬期には砕氷船を使用して航路を確保し、多重構造のタンカーを使用して安全性を高めているとのことでした。

今回の協議で、エクソン・ネフテ社から一定の情報提供はありましたが、今回だけで十分ではありません。今後も円滑な情報提供を受けるため、定期協議の開催を確認し協議を終了しました。

サハリン訪問団メンバー



前列右から今理事(留萌管内組合長会会長、北るもい漁協組合長)、平野本部長(ぎょれん副会長、えりも漁協組合長)、阿部理事(北見管内組合長会会長、紋別漁協組合長)、本間事務局長(ぎょれん常務)、中列右から豊福環境本部事務局(ぎょれん環境部部長代理)、西常任理事(ぎょれん副会長)、大谷宗谷管内環境本部副本部長(網走漁協組合長)、末岡常任理事(信漁連副会長)、後列右から上田常任理事(道さけます増協専務)、通訳のエレーナさん

「サハリン・エナジー社」 原油積出港の現場視察では厳重警備 に緊張

サハリン・エナジー社は、オランダとイギリスの石油会社と日本の商社が共同で設立したロシア企業で、現在はロシア企業が筆頭株主になっています。11月1日、サハリン・エナジー本社で意見交換会を行いました。平野本部長からは、油濁事故発生時の北海道漁業への影響を説明。サハリン・エナジー社からは、ヤモモト渉外担当責任者を含む危機管理、環境保全および広報担当者から油防除体制の整備状況や環境保全活動に関する説明がありました。

続いて、プリゴルドノエにある原油・LNGの積出ターミナルを訪問し、積出集中管理室や



サハリンエナジー社での意見交換会

原油・LNG分析試験室を視察しました。集中管理室では、LNGの精製から冷却、タンカーへの積み込みと沖合の原油積出施設を多数のモニターによって管理していました。原油やLNGの成分や不純物質の調査を実施している分析試験室では、担当者が液体窒素を使用したLNGの精製実験を演習してくれました。

また、今回初めて、油濁事故が発生した場合に使う資機材（吸着マットやオイルフェンス等）を保管している倉庫や事故発生時に使用する小型ボート等を確認。油濁事故対応の設備がある場所は、国境地帯のため、厳重な警備と安全管理が徹底されていました。そのため、警備担当者によりパスポート確認が行われるなど、参加者一同、緊張しながら現場を視察しました。プリゴルドノエの原油・LNGの積出ターミ



プリゴルドノエの原油・LNG積出ターミナルで油防除体制等について説明を受けました

ナルは、想定される油濁事故に十分対応が可能であることがわかりました。しかし、想定を超えた油濁事故の発生もあり得ることから、サハリン・エナジー社に対し、油濁事故に対応する資機材のさらなる整備や訓練の継続を要望しました。

サハリン・エナジー社は定期的に来札して、環境本部との意見交換を行っていることから、他のサハリンプロジェクト開発業者に比べて協力的な関係を築けています。前回の訪問では、その協力関係を記念してシラカバを植樹しました。今回は、冬季のため植樹ができず、その生育状況の確認のみでしたが、サハリン・エナジー社からは植樹を継続して並木道を作りたいとの提案もあり、次回は植樹を行う予定です。



前回の訪問で記念植樹を行ったシラカバの生育状況を確認する平野本部長

サハリン州漁業省長官、日本総領事館、北海道サハリン事務所とも懇談しました

10月30日、サハリン州政府の漁業省を表敬訪問し、油流出事故から海洋環境を守るための協力の要請をしました。また、トド等の海獣被害やモガニの違法操業、サハリン産コンブについても協議を行いました。

また、サケ・マスふ化場を見学し、チヨウザメ、イトウ、ベニザケ、ギンザケ等のふ化放流事業について説明を受けました。特にチヨウザメは、数が激減したため、手厚い保護を受けているそうです。サハリンではキャビアの販売が禁止され、チヨウザメの身を使用した「キャビアもどき」しか購入出来ない状況です。また、河川の種の固有性を維持するため、ベニザケや



サハリン州政府漁業省との協議に臨みました

ギンザケは捕獲した河川に稚魚を放流しているとの説明もありました。

在ユジノサハリンスク日本総領事館では、瀬尾総領事と懇談し、油流出事故発生時の迅速な情報収集・伝達を要望。領事からは、日常的に事業者やロシア国内関係機関から情報収集に努めているとの説明があり、今後のサハリンプロジェクトに関しても情報提供は継続していくとの回答を頂きました。

北海道サハリン事務所では長谷川所長から道の情報収集体制について説明を受けました。また今回の訪問では、道サハリン事務所のみならずにはサハリン州政府との懇談や施設視察等の設定や同行などにご協力頂き、大変有意義な訪問となりました。

今後とも北海道漁業を油濁事故から守るため環境本部としてしっかりと対応していきます。



サケ・マスふ化場で稚魚の飼育施設を見学する参加者

街角スナップ



サハリンの市場には様々な魚種が並んでいました



レーニン広場近くのサハリン鉄道局

今月の家族
浜の物語



【福島さんご一家】 福島 正和さん(33歳)、将美さん(32歳)、結菜ちゃん(9歳)、愛華ちゃん(6歳)、勘右くん(5歳)、桜空ちゃん(0歳)

※正和さんのご両親浩二さん信子さんと一緒に

「浜の家族物語」では、「なみまるくん」の表紙に登場いただいたご家族を紹介します。今回は、いぶり噴火湾漁協の福島さんご一家です。

家族みんなで取り組めるのがこの仕事の魅力

ほたて養殖に従事する福島家の3代目正和さんは、地元虻田高校卒業後、鹿部の漁業研修所で1年間学び、漁師になりました。中学1年時の担任の先生が「正和は虻田の海を守る男になれ。」と文集に書いてくれた言葉がずっと心に残っているそうです。現在、いぶり噴火湾漁協虻田地区青年部長を務める正和さんは、「青年部の決まり事でも組合の決まり事でも、先人が作ったことには何か理由がある。なんでも変えればいいわけじゃない。時には守っていくことも大事。」と話します。もし周りが間違った方向に進みそうになったら、それを正すのも自分の役割だと自覚しています。

福島家では、90歳を超えた祖父母が籠直しなどの陸仕事を手伝ってくれて、正和さんと両親の3人が沖に行っています。また妻の将美さんや子ども達も陸仕事の手伝いなどで応援してくれています。正和さんは、「ほたて養殖漁業は、目標に向かって家族みんなで取り組めるのも魅力。」と笑顔で教えてくださいました。

今度は自分が頑張る番です

21歳の時に福島家に嫁いだ将美さん。子育てや家事をしながら、耳吊りのピン打ち、籠直しなど陸仕事を手伝っています。長女の結菜ちゃんは小学4年生。妹や弟の面倒をよく見て、お父さんやお母さんのお手伝いもよくしてくれる優しいお姉さんです。小学校では少年団に入って和太鼓を頑張っています。いつも活発な小学1年生の次女愛華ちゃんはとても努力家。一生懸命ピアノを練習して、今年のコンクールで賞を取りました。長男勘右くんは運動が得意で、自転車に乗るのが大好きな保育所の年中さんです。今年6月に生まれた三女桜空ちゃんは、家族からの愛情をたくさん受けてすくすく育っています。

「福島家があるのはじいちゃんとかあちゃんが頑張ってくれたからだと思います。」と言う正和さん。昨年新造した第五正福丸の舵を任せ、じいちゃんと父さんが頑張って新造してくれた船です。今度は自分の番。しっかり仕事で返していきます。」と力強くその意気込みを話してくれました。



根室・留萌地区で三連合同研修大会が開催されました



年に一度、管内の購販・マリンバンク・共済推進委員の皆さんが一堂に会し、情報交換や懇親を深める三連合同研修大会。今回は11月に行われた、根室・留萌両地区での大会の様子についてご紹介します。

【根室地区】



基調報告をする藤田支店長

11月9日(土)、川湯観光ホテルにおいて、平成25年度根室地区漁協マリンバンク・共済・購販推進委員会合同研修大会が行われ、管内から132名が参加しました。大会では、各推進委員への表彰が行われ、委員として推進活動に尽力され、その普及と啓蒙活動に貢献された12名の方が紹介されました。講演では、信漁連の藤原常務が、「協同運動と報徳」と題して、農林水産業を取り巻く昨今話題を交えながら、協同と報徳の大切さについて話しました。系統各連の支店長・支所長から基調報告を行う総合研修では、ぎょれん根室支店の藤田支店長が、管内の主要魚種の動向や購買事業などについて話題提供した後、内容に関する30問のクイズを出題し、参加した皆さんに理解を深めてもらいました。

【留萌地区】



購販推進委員の分科会会場

11月8日(金)、羽幌町にあるはぼろ温泉サンセットプラザにおいて68名が参加して、第13回留萌地区漁協事業推進委員研修大会が開催されました。講演は、信漁連の末岡副会長が「浜の幸せを求めて～今こそ協同の時代～」と題して、変化の激しいこの時代を乗り切るためには協同組合がより重要になると述べました。その後、各委員は購販、マリンバンク、共済の分科会に分かれて情報交換。購販推進委員の分科会では、ぎょれん留萌支店から管内の主要魚種である秋鮭、ほたて、たこ、えびの全道の水揚げや消流状況等を説明。また購買部から石油情勢、漁業用アシストスーツ「腰楽スーツタスカル」の紹介や試着を行いました。委員の皆さんからは、アシストスーツの使用感や改善についても積極的に意見が出されました。



100人を超える推進委員の皆さんが参加しました



交流会で挨拶をする濱邊購販推進委員長



閉会式で大会を総括する加藤購販推進委員長



推進委員の皆さんにアシストスーツの使用感などについて多くのご意見をいただきました

浜の若きリーダーを訪ねて

漁師として最前線で働きながら、若手漁業者の先頭に立ち、浜の将来を仲間とともに切り拓いていく道漁青連地区会長の皆さん。このコーナーでは、そんな「浜の若きリーダー」をご紹介します。今回は、昆布漁、刺し網漁、つづ籠漁に従事しながら、日高地区漁青連会長として活躍するえりも漁協の佐々木優さんを訪ねました。

午前6時、佐々木さんは東洋漁港に停泊中の第十八東洋丸のエンジンを始動し、父と2人で沖に出発します。佐々木さんはこの時期、ハタハタ刺し網漁をしています。10分ほどで漁場に到着し、網を仕掛けた場所の目印である浮きを引き上げ、次々と刺し網を引き上げていきます。父との息もぴったり40分ほどで水揚げを終了し、帰港します。帰港後は引き揚げたばかりの網をトラックに積んで番屋に移動し、網から魚を頼んで網はずしをするのですが、この日はまだ漁期の序盤。2人で約2時間ほどで魚を網からはずしました。まだ水温が高いため、ハタハタよりもイワシやニシン、カジカが多く掛かりました。佐々木さん曰く、「例年、ハタハタが寄ってくるのは11月25日から12月5日ころ。



プロフィール

北海道幌泉郡えりも町出身。えりも高校を卒業後、釧路の漁業研修所で学び、実家の昆布漁、刺し網漁に従事。平成16年えりも漁協東洋地区青年部長に就任、平成22年から日高地区会長に就任して現在に至る。



目印の浮きを引き揚げます



刺し網を巻き上げてカゴに入れます



水揚げした網をトラックに積み込み

水温がもう少し低くならないと。」と教えてくれました。昨年のハタハタ漁は時化が多かったものの水揚げは良かったそうで、今年にも期待がかかります。

船積み酒づくりをきっかけに声を上げやすい雰囲気醸成

「海が好きだったから。」と漁師になったきっかけを教えてくださいました佐々木さん。小さい頃から父と二人で沖に行き、仕事を手伝ってきたそうで、漁師になるのは自然な流れだったそうです。最近の海の環境や獲れている魚種、その時期が少しずつ変わってきていることに触れ、「昔からのやり方をただ真似ていては駄目。自分の経験と照らして検証し、自分が納得した上でやってみるべき。変えるべきところは変えていかな」といいます。

えりも漁協東洋地区青年部長を務める佐々木



魚を網からはずすのは根気がある作業です



2人で行う網さやめ（網をまとめます）



この日水揚げされたばかりのハタハタ



船積み酒「ひだか 漁師の絆」

さん。平成22年には日高地区漁青連の会長に就任しました。日高地区漁青連では今年、45日間船積みして熟成させた日本酒「ひだか 漁師の絆」を作りました。前地区会長の時から取り組みを始めて足掛け3年。まずは日高地区の青年部員の人数と同じ240本を作りました。大変好評で在庫が少なくなったため、現在第2弾を準備中だそうです。船積み酒を始めたのは「きっかけ作りだった。」と佐々木さん。「地区がちがう部長や部員同士のつながりを作るために何かをしたいと考えました。それがこの酒でした。酒を売ることが目的ではなく、そういったきっかけを次に活かすことが大切。」と話します。新しい試みを取り入れて若い青年部員が声あげやすい雰囲気を醸成することができれば、もっと青年部活動が活発になり、日高の浜が盛り上がる

と考えています。「みんな若いんだから失敗を恐れてちゃだめだね。」と佐々木さんは言います。また、道内の船積み酒の先駆者である留萌地区

にはいろいろとアドバイスをもらい、大変感謝しているそうです。

会議でも意見を言ってみることが大切です

「青年部では自分のしたいことをしていきたい。そのためにはどうするかをまず考える。」と言う佐々木さん。全道や地区漁青連、地元東洋地区の会議では必ず発言するそうです。「みんなの前で発言する、声を上げることが大事。無駄なことではない。全て自分の勉強になる。」と教えてくれました。参加して座っているだけの会議なら、あとから資料だけ貰って読めばいいこと。単なる情報にしかならず、時間の無駄だというのが佐々木さんの考えです。お話を聞きながら、若い青年部員みなさんに向けて発せられたメッセージの数々がとても印象に残りました。

漁のほつとニュース

大漁祈願!

桧山

ひやまに冬の訪れを告げる釣り(延縄)助宗漁が11月後半から始まり、着業船およそ50隻が冬の日本海で荒波に立ち向かって操業します。昨年の水揚げは3,000トンと好漁でした。今年も大漁を期待し、浜は漁に向けて延縄の手入れや餌の準備にと余念がありません。

函館

南かやべの定置網でするめいかの漁が徐々に見え始めてきました。11月中旬に入ってから日々30～60トン程度の水揚げがあり、全道的ないか不足から浜値も高値で推移しています。これまでの低調な水揚げから一転して漁が増え、浜からは安堵の声も聞こえています。

室蘭

胆振管内では、秋鮭定置網漁が終盤を迎え、管内の累計水揚げ数量は11月20日現在4,488トン(昨年比159%)と不漁だった昨年より回復しています。10月から始まった助宗刺網漁はまだ水揚げ不振が続いておりませんが、卵質が良くなる12月に向けて水揚げが増えてくることが期待されます。生産者の皆さんの安全操業と豊漁を祈念しています。

日高

秋鮭定置網漁が11月23日で全地区終漁します。終盤は伸び悩みましたが、中盤の好漁が水揚げをけん引。20日現在で昨年の3割増の水揚げとなっており、昨年を大きく上回ったまま終漁を迎えられそうです。11月下旬よりえりものはたはた漁、12月より日高東部の毛がに籠漁、さらにはばがれいと助宗刺し網と年末に向けて浜は賑わいそうです。

釧路

秋鮭漁はほぼ終漁し、昨年比160%の水揚げとなっています。ししゃも漁については各地出漁しており、出漁日数は昨年より多いものの、水揚げが振わない状況です。短い漁期ですが、終盤に向けて水揚げ増を期待するところです。11月に入り、たこやばがれい、真だらなど、冬漁の魚種も徐々に水揚げされており、浜が一層賑わうことを期待します。

根室

標津漁協のほたて漁が11月15日に操業開始となり、初日は約65トンの水揚げでした。現在羅臼漁協では潜水ほたて漁が行われており、今後他地区でも操業が始まります。市内では主に真たらが水揚げされるロシア200海里水域での底延縄漁が始まりました。期間中の安全操業と豊漁を期待しています。

北見

例年より早い初雪の便りも聞かれ、日に日に寒さが厳しくなる中、各浜の秋鮭定置網漁は終漁を迎えました。管内では引き続きほたての水揚げや底建網漁が行われており、まだまだ浜は賑わいを見せています。また、サロマ湖のかきはこれから旬の季節を迎えます。時化も多い季節となりますが、安全操業と大漁を心より祈願しています。

稚内

オホーツク海地区では、秋鮭漁が終盤となり、昨年対比で1.5倍の水揚げ数量となっています。11月半ばを迎え、3月の漁場造成から約9カ月間水揚げが続いたほたて漁は、宗谷・頓別地区で終漁となりました。猿払・枝幸地区も終漁間近となっています。日本海地区では、かれい・たららの刺網漁が始まりました。本格的な冬を迎えますが、安全操業で豊漁を願っています。

留萌

11月に入り留萌では初雪が観測される中、三陸向けのほたて半成貝の出荷が始まりました。各浜は時化の合間を縫いながらの出荷作業で賑わっています。また、かれい類の水揚げもますますで、11月18日には管内でかれいが約650ケース、平日が約400ケースとまとまった水揚げとなりました。さらに冬を代表する真だらの水揚げが増えつつあり、浜は活気づいています。

小樽

東しゃこたん漁協(美国)の大謀定置網漁が好調です。11月6日、めじまぐろの水揚げで今季最高の867本を記録。また脂乗り抜群のぶりや真さばが水揚げされる日もありました。小樽機船漁協では約30年ぶりの船凍いかの荷揚げがあり、約9,000函が入札されました。寿都・島牧でも定置のほつが徐々に増え、かれい・はたはた刺網漁を含め、大漁が期待されます。

新しい室蘭水産ビルが完成しました



ぎょれんの室蘭支店事務所(室蘭水産ビル)は、築39年が経過し老朽化が著しくなっていたため、旧事務所を取り壊し、全面的に立て替えが行われました。8月20日から開始した建設工事は、11月20日に完了し、22日(金)には新事務所での竣工式が行われました。今回はその真新しい室蘭水産ビルをご紹介します。



総勢30名が出席し建物の完成を祝いました

新事務所は、旧事務所の2階建てから平屋建てとなりました。入居するぎょれん、しんれん、きょうさい3団体の職員の人数に応じて、スペースを有効に活用したつくりとなっています。照明などでの省エネ化や、火災や油流出のリスクを排除したオール電化などの特徴があります。また、各系統団体ごとに選んだ壁の色を採用した執務スペースが出来上がりました。

11月22日(金)には、胆振総合振興局、管内漁協、入居する系統団体、工事関係者らが出席して竣工式が執り行われ、新事務所の完成を祝うと共に皆さんに披露されました。

入居する各系統団体は12月2日(月)より新事務所での営業を開始する予定です。



ここにこだわり!



1. 節電

蛍光管にLED照明と同等以上の省エネ効果が期待できる「eクール」を採用。壁には待機電力をカットできるスイッチを設置しています。



2. セキュリティー

共有部分は全て電子キーで管理。ぎょれん事務所内に据え付けたキャビネットではダイヤルロックで個人情報などの機密情報の漏えいを防ぎます。



室蘭水産ビルの概要

- 所在地：室蘭市東町3丁目
- 規模構造：鉄骨造 平屋建
- 敷地面積：1,005.24㎡
- 建築面積：441.15㎡
- 延べ面積：441.15㎡

漁協合併50周年記念

雄武漁協が、漁船海難遺児育英会に寄付を行いました

雄武漁協は、漁協合併50周年を迎えたことを記念し、漁船海難遺児育英会に30万円の寄付を行いました。

昭和38年に旧雄武漁協と旧沢木漁協が合併し、誕生した雄武漁協。誕生から50年の節目を迎えた今年は、関係者約180名が出席した記念式典と祝賀会も行われました。

10月25日(金)、ぎょれん本所を訪れた雄武漁協の片川隆市組合長は、ぎょれんの川崎会長に目録を贈呈し、川崎会長からは寄付に対する感謝の言葉とともに、感謝状が手渡されました。



目録贈呈後、記念撮影をする雄武漁協の片川組合長(右から2人目)と、ぎょれんの川崎会長(右)、西副会長(左から2人目)、佐藤専務(左)

04

北海道漁協専務参事会研修会を開催

講演「地方の再生と日本の将来」が行われました

11月20日(水)、水産ビル8階大会議室において、「平成25年度北海道漁協専務参事会研修会」が開催され、慶応義塾大学法学部教授の片山善博さんによる講演「地方の再生と日本の将来」が行われました。片山さんは東京大学法学部を卒業後、自治省に入省。固定資産税課長などを経て1999年鳥取県知事に当選し、2期9年務めた経験を持ちます。

「就任当時、鳥取県は貧乏県と言われました」と語る片山さん。前任者達の公共事業による県の借金600億円を返しながら、新しい形の公共事業を推し進め、地元雇用の創出と地域の再生に力を注いだといいます。「公共事業全てが悪いわけではない。しかし、過去の公共事業を分析してみると、東京の大手ゼネコンや電力・燃油に支払う県外支出が非常に多く、鳥取県を一つの国に例えると、貿易収支が非常に悪い状態だった」と語ります。そこで、片山さんは、新しい建設物は必要最小限にし、既にある建設物の保守に重点を置いて地元雇用を生み出すこと、また、急傾斜地が多い鳥取の特性を生かし、小規模型の水力発電で県内生成エネルギーを増やす等、公共事業の方向性を変え、収支を改善していきました。

「現在の日本は、政府の円安政策により、輸入量は同じでも燃油代金上がり赤字が増える。そこに原発再稼働の話も出てくる。しかし、今踏みとどまって構造自体を変えることが大切。地方はその土地の利点を生かし、県内で雇用やエネルギーを創出できます。鳥取に比べ人口や産業の規模も大きな北海道は、鳥取とはまた違った特長を生かせるはずです。」と語り、講演を締めくくりました。



地方の再生プランを、鳥取県知事時代の実体験を元に分かりやすく講演した片山善博さん

05

ぎょれん×コンサドーレ札幌 食育&サッカー教室を開催 幼稚園から小学生の子どもたちとその保護者約180名が参加しました

10月26日(土)、室蘭市にある入江運動公園陸上競技場で今年度2回目となる「ぎょれん×コンサドーレ札幌 食育&サッカー教室」を開催し、幼稚園・小学生の子どもたちとその保護者約180名が参加しました。一昨年度よりコンサドーレ札幌とタイアップして行っている食育&サッカー教室は今回で通算8回目となりました。

食育教室では、コンサドーレ札幌の管理栄養士で(株)ウェルネスプランニング札幌代表の小松信隆氏が「スポーツをする子どもに必要な栄養」について講演。スポーツをする子どもたちに最適な「道産水産物を活用したレシピ」を紹介しながら、食事と栄養素の重要性について解説しました。サッカー教室ではコンサドーレ札幌ジュニアスクール 佐々木 滋、金濱正明 両コーチが子どもたちを直接指導。子ども達は、水産物のイラストを使って出される指示に従ってプレイするミニゲームなどのユニークな練習で汗を流しました。



これまでで最も多い180名の皆さんにご参加いただきました

01

平成25年度第2回道漁青連地区会長会議を開催

全道漁協青年部交流大会などについて協議しました

10月26日(土)札幌市のぎょれん第1会議室において、第2回道漁青連地区会長会議が行われ、全道10地区の地区漁青連会長など19名が参加しました。会議に先立ち、来年50周年を迎える北海道水産ビル(株)の瀧野社長から、記念事業として寄付金の贈呈を受けました。道漁青連では、この寄付金を全道青年部交流大会等に有効に活用する予定です。

会議では、来年1月25日に開催される第51回全道漁協青年部交流大会の詳細について協議したほか、全道ブロック別漁協青年部幹部研修会や研修視察等についても話し合いました。また今年度2回目の漁師さんの出前授業の講師を選定し、石井宗谷地区会長と小笠原留萌地区会長が務めることに決まりました。

会議に引き続き、道漁青連役員とぎょれん役職員との懇談会が行われ、道漁青連役員から事前に寄せられた「TPPの動向と系統の対応について」や「TACについて」など4つのテーマに基づき、活発に意見が交わされました。



北海道水産ビル(株)瀧野社長(写真右)から目録を受け取る道漁青連地区会長と各地区会長の皆さん

02

「北海道のほたてで 簡単&おいしい うちごはん」親子料理教室を開催

親子で「北海道のほたて」の手軽さとおいしさを知ってもらいました

ほたて漁業振興協会とぎょれんでは11月に、全国各地に料理教室を展開する「ホームメイドクッキング」とタイアップして、ほたて料理教室を開催しました。3年目を迎えた今年は、「北海道のほたて」を家庭で調理する機会を増やしてもらおうと、親子を対象に行いました。

11月2日(土)札幌市中央区の札幌校での教室には、幼稚園から小学校の子どもと保護者10組が参加しました。親子で「ほたてクイズ」に挑戦してもらい、楽しくほたてについて勉強した後、「ほたてとベーコンのオープン焼きチーズ風味」や「ホタテときのこのカレールームパスタ」など、北海道のほたてスピードレシピコンテストの受賞レシピ4品を調理して試食しました。参加者からは、「普段、家でほたてを刺身やバター焼きくらいでしか食べないので、今日のレシピを家でも作ってみたい。」という感想も聞かれ、ほたての手軽さとおいしさを再認識してもらうことができました。



親子で「ほたてクイズ」に挑戦「ずばり、ほたてに目はあるでしょうか?」

03

告知

漁業経営セーフティーネット構築事業

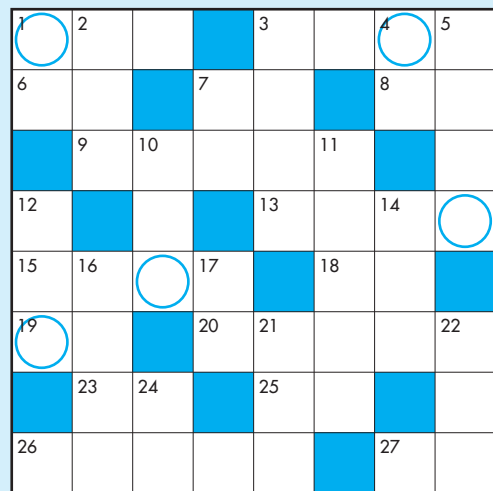
特別対策への加入をお願いします(12月20日まで)

昨今の急激な円安に伴う燃油高騰対策として、7月から「漁業用燃油緊急特別対策」が開始され、現在、与党自民党は本年度補正予算での第2弾緊急対策の実施を検討しています。

第2弾の緊急対策は、漁業経営セーフティーネット構築事業における「特別対策へ加入」している漁業者が支援対象となる模様で、「未加入」者は本対策の恩恵を受けられない可能性があります。これまで、補てん単価が少額であること、燃油使用量が少ないなどの理由から、本事業への加入を見送って来た漁業者にとっても、第2弾対策が実施された場合、相当額の補てん金を受けられる可能性があります。

ついては、最終の申込期限が12月20日に迫っておりますので、早急に特別対策への加入をお願いします。詳しくは各漁協にお問い合わせ下さい。

クロスワードパズル



○印に当たる言葉を
うまく並べてください。

解答 となります。

くawaii応募方法は、17ページをご覧ください。
抽選で5名様に図書カードをプレゼントします。



11月号の解答と当選者
オンセンガイ

(根室市) 高橋 希歩さん
(伊達市) 久本テルミさん
(遠別町) 岡崎 毅さん
(苫小牧市) 山下沙代子さん
(湧別町) 青島 達子さん

次のクロスワードを完成させ、○印に当たる言葉をうまく並べてください。今年も残りわずか。新しい年を迎えるに当たり、たまった一年の汚れを落としましょう。身の回りをきれいにし、気持ちよく新年を迎えたいものですね。

タテのカギ

- ① 手前⇄
- ② ルーレットやブラックジャックなどのゲームで金銭を賭けます
- ③ 東から昇って、西に沈む
- ④ 2014年冬季オリンピックの開催地
- ⑤ イノシシの子どもの別名は?
- ⑦ 戸締まりをする時にかけます
- ⑩ 首のうしろ
- ⑪ コレをソーダ水で割ったらハイボール
- ⑫ 香港・○○○は、中国の特別行政区
- ⑭ タテ4がある国は?
- ⑯ 電卓もソロバンも、コレが得意
- ⑰ 杏仁豆腐にのっている赤い実
- ⑱ 「漆器」はコレを塗った器
- ⑳ 軒下などに垂れ下がった氷
- ㉔ サッカーJリーグの現役最年長選手の愛称「キング・○○」

ヨコのカギ

- ① 豆腐を作るときに出る絞りかす
- ③ 「内村航平」や「白井健三」は何の選手?
- ⑥ 年末ジャンボは「宝○○」
- ⑦ ○○外・○○社・○○段
- ⑧ 積もれば山となるのは
- ⑨ 作物や畜産物を生産する仕事
- ⑬ 「外郎」と書く和菓子
- ⑮ 床の間などに掛けて鑑賞
- ⑯ 握って、巻いて、散らしてよしの日本食
- ⑲ 兄弟姉妹の息子
- ㉒ コレが張り出すと天気は晴れ
- ㉓ 上りと下りがある道
- ㉕ カレーにかけるソース
- ㉖ 聖徳太子が中国に送った使節
- ㉗ 「㊦」はコレの地図記号

間違いさがし

間違いは5つです。

※右と左の絵には、5か所の異なる箇所があります。
さあ、見つけてください。
(印刷のズレや汚れは関係ありません。)



※答えは17ページにあります。



本道漁業の担い手を育成する北海道立漁業研修所を紹介するシリーズ「漁業研修所通信」。
今回は、今年度の総合研修の集大成として行われた海友祭と修了式取材しました。

第6回海友祭

道立漁業研修所では、11月4日(月)に、「第6回海友祭 We Love Sea Story〜僕らの海物語〜」が開催されました。本年度の受講生が半年間の研修成果を発表する場で、加工食品の販売やロープワーク体験など多彩なイベントが用意され、地元鹿部町をはじめ多くの来場者でにぎわいました。

海友祭は研修の様子や成果を紹介するとともに、地域の方々との触れ合いも目的に行われています。受講生の皆さんは網の修理法を実演したり、ロープの結び方を来場者に指導するなど積極的に交流を図っていました。また加工品販売コーナーでは、受講生手作りのさけフレークやたこやほたて、つぶの薫製類などが格安で販売され、開場して数時間で売り切れてしまうほど来場者の人気を集めていました。「大勢の人たちが足を運んでくれて、研修期間中にお世話になった地元の人たちとも触れ合うことができ、準備をがんばってきてとても良かったです。」と嬉しそうに答えてくれた受講生の笑顔が印象的でした。



毎年楽しみにしている地元の人も多い加工品販売コーナー



来場者に受講生がロープワークを丁寧に指導します

平成25年度総合研修修了式

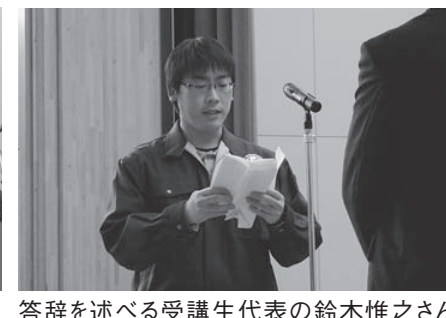
翌5日(火)には、本年度の総合研修の修了式が、受講生とその保護者、来賓、研修所の職員が出席して執り行われました。漁業後継者を目指し、必要な知識や技術の修得、資格取得などに半年間にわたって取り組んできた42名の受講生の皆さん。それぞれの地元に戻り、漁業者として今後の活躍が期待されます。



池津所長から修了証書を授与されました



ノートボード製作で金・銀・銅賞を受賞した受講生3人が表彰されました



答辞を述べる受講生代表の鈴木惟之さん(標津漁協)

編集部からのお知らせ

皆様からのお便り、写真、イラストをお待ちしています!

次の①～③を明記の上、ご応募ください。抽選で5名様に図書カードをプレゼントします。

- ①なみまるおたより箱への投稿(お便り、写真、イラスト等)や、広報なみまるくん12月号への感想・ご意見など
- ②15ページのクロスワードの答え
- ③住所・氏名・年齢・電話番号

〈宛先〉12月20日までにお送りください。

(郵便) 〒060-0003

札幌市中央区北3条西7丁目1番地
北海道ぎょれん 総務企画部 広報担当
(FAX) 011(242)3543
(電子メール) info@gyoren.or.jp

※「なみまるおたより箱」には①からご紹介します。ご応募いただいた方の個人情報は、図書カード進呈や、お便り、写真、イラスト等の掲載(氏名、年齢、市町村名)にのみ使用いたします。写真やイラストは、返却できませんのでご了承ください。

15ページの間違えがしの答え



編集後記

今年も残すところ、あと1ヶ月となりました。「今年もあっという間だったねえ」昔、親や親戚が言っていたのが思い出されます。「浜のほととニュース(11頁)」では、秋漁が終盤を迎え、冬漁の活気とともに、浜もラストスパート!の雰囲気を感じられます。いつもお便りをくれる子どもたちは、冬休みやクリスマスが待ち遠しい頃かもしれませんね。忙しくとも、どこか楽しい気持ちになる12月。寒さは増しますが、皆さん元気で、そして浜が大漁でありますように☆

(工藤)

「カメラ」「ノート」「名刺」が、私の「取材3種の神器」です。広報の仕事をするようになってから、写真に興味が出て、新聞や雑誌、ポスターなど印刷物の見え方も変わってきたような気がします。まだまだ修行中の身ではありますが、頻りにカメラに触れて写真を撮っているうちに、だんだんと「良いモノ」が欲しくなってきました。撮影技術に見合わないことは重々承知しているつもりではありますが、財布とにらめっこする日々が続いています。(櫻田)

海難の予防にスクラム まちぐるみ

公益社団法人 北海道海難防止・水難救済センター

寒くなると鍋料理が食べたくなりま
すね。一人暮らしなので、小さな鍋でよくひとり鍋をします。でも鍋は大勢で
食べる方が楽しいものです。(札幌市 橋本 光江さん)

千葉県在住の大学生の娘宅に部活の仲間が集まると言うので、鮭、いくら、シンギスカン、アイス等を送りました。ワンルームに8人がいくらず井を持って喜んでる写真メールが届きました。美味しいー。(標津町 渡部 恵子さん 58歳)

みなさんのお便りでつくるページです。

なみまるおたより箱



いよいよ雪の降る時期がやってきました。朝早く仕事に出掛けられる漁師さん達、車の運転にはくれぐれも気をつけてください。(根室市 高屋敷 実香さん)

庭にあるカエデの木の葉っぱが落ちて庭がさみしくなっています。これからは雪が降って寒くなります。スケートの授業が楽しみです。(厚岸町 小島 史香さん 12歳)

今年も11月になってしまいました。ダイコンを干す光景も、ところどころ見かけます。鮭漁も終盤を迎えています。(根室市 イカ子さん 55歳)

11月号の今月の1枚を楽しみ見ていただきました。漁師のみなさんご苦勞様です。「浜の家族物語」を好きな方が多いようです。島牧村も2度目の掲載をお願いします。(島牧村 泉谷 智子さん 86歳)

寒くなると鍋を食べながら暖まって疲れと栄養を摂りたいですねー鰯、鮭、鰯、すり身、毎日でも食べたいです。(豊浦町 竹島 暁子 43歳)

減産の昆布。我が家の食卓には淋しさを感じます。一年分を確保して捨てることなく利用していました。11月号の記事「浜の元氣印」に食べる昆布が載っていました。生産者のことをもっと知り、活気あふれる浜になることを祈っています。(七飯町 清水 悦子さん)

「浜」にて新鮮な魚介類の購入ができません。が村人の声です。村に要望しておりますが、返事はありません。先般、高齢者事業団の賛成者で湯の川温泉に行ってきました。積立貯金箱が効力発揮です。高齢者の団体組織も大切です。(島牧村 泉谷 泰三さん 86歳)

〈編集部から〉オホーツク海にするめ
いかに季節がやってきました。多い時は3回以上も沖に行くことがあるそうです。船倉からあふれるするめ
いかが圧巻ですね。



タイトル:イカの襲来
(興部町 坂本 翔さん 20歳)

今月の1枚

本格的な冬が近づくと11月、夫の鮭漁の定置網が切り上げとなりました。これからはますます寒くなりますが風邪を引かず、安全第一で仕事に励んで欲しいです。(苫小牧市 山下 沙代子さん 27歳)

協同の力でコスト削減

系統ブランド資材紹介コーナー

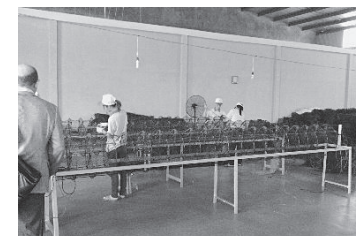
良質で安い資材を浜に提供することを目的に、ぎょれんが自ら企画・開発をしている資材が「系統ブランド資材」です。

なみまるくんでは、皆様に「系統ブランド資材」の個々の商品特長をもっと知っていただくため、毎月1つの商品を詳しくご紹介しています。ぜひ、資材購入の検討に、お役立てください。

今月は 輸入ほたて養殖籠をご紹介します!

おすすめポイント

- ベトナム製品の取扱いを開始しました。
- 中国・ベトナム両国あわせて3社での製造体制となり、ご注文には柔軟かつ迅速に対応いたします。



ベトナムでの養殖籠製造の様子

ぎょれん購買部とマリノサポート(株)の担当者が全道の皆様のもとを訪問し、取りまとめなどの企画も行っています。ぜひ、ご用命ください。



取りまとめの際には、規格の絞り込みや数量をまとめることにより価格メリットが創出できます。

一緒に、手棒(ロープ)もどうぞ!

ぎょれん購買部 漁業資材担当
堀籠 あいさん



手棒(ロープ)

実際にご使用いただいた感想をお聞きしました!



増毛漁協 副組合長
石田 和夫さん

以前より、ほたて養殖籠は国内製・中国製を併用していましたが、中国製は年数を追うごとに不良品の割合が高くなってきたため、ぎょれんも他社と同様に「ベトナム製」に切り替えるべきと提案していたところ、実際にベトナム製の取扱いが始まりました。このように浜の意見をいち早く取り入れ、品質改善を実現できる力は、「系統ブランド資材」ならではのことだと思います。その意味で、浜に風通しがよく、対応にもスピード感があると感じています。

ベトナム製の丸籠は、実際に使用してみると、中国製に比べて品質が格段に良くなったと感じます。「10年使える籠は良い籠」と言えますが、ベトナム製丸籠は、まさに10年以上使える籠です。もともと、系統ブランド資材の籠は他社に比べて価格面で勝っていましたが、ベトナム製の登場により品質面でも他社に劣らなくなり、価格と品質を両立できる商品になったと思います。

ご注文・お問い合わせは、漁協購買部へおねがいたします。

風味豊かなドレッシングがプリプリほたてとシャキシャキ大根にぴったり

大根と帆立の 梅肉ドレッシング

浜のおかあさん

レシピ



今回はほたてを使った「大根と帆立の梅肉ドレッシング」をご紹介します。ほたては氷水でしめてプリプリに、大根は冷水に浸けてシャキシャキにしたおいしいサラダです。梅の酸味が効いた、さっぱりとしたドレッシングはほたてと大根にととてもよく合いますよ。

材料 (4人分)

- | | |
|-----------|------------|
| ・ほたて貝柱…8個 | 〈ドレッシング〉 |
| ・大根…1/4本 | ・梅干…中15個 |
| ・パセリ…適量 | ・みりん…大さじ3 |
| | ・砂糖…小さじ1 |
| | ・サラダ油…大さじ4 |

作り方

- ① 梅干の種を除き、梅肉を包丁でたたいてペースト状にする。
- ② ①をすり鉢に入れ、みりんと砂糖を加えながらなめらかになるまでする。
- ③ ほたての貝柱を薄くスライスし、軽く湯通しする。
- ④ ③のほたてを氷水でしめる。
- ⑤ 大根は皮をむいて、ごく薄い輪切りにし、水につけておく。
- ⑥ ボールに②を入れ、サラダ油を少しずつ加えながら泡だて器でなめらかになるまで混ぜて、梅肉ドレッシングを仕上げる。
- ⑦ 皿に⑥をアンダーソースのように敷き、水分を十分にふき取った大根、ほたての順に放射状に盛り付け、パセリを飾りつけて完成。



北るもい漁協
米森みゆきさん